

令和2年度 天理高等学校第二部 学校運営評価

評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない

1. 重点目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
①	(信条教育への取り組み) 神恩感謝の念を心に抱き、働く喜びと学ぶ喜びを体得できる生徒を育てる。	学校参拝を真剣に取り組む。	B	○コロナ禍で定期参拝をすることができなかったが、教職員・生徒ともども、自ら神殿に向かう姿勢が見られた。 ○登校時の検温の際に、教職員と生徒がお互いに声を掛け合うことで、挨拶の習慣付けができた。 △新型コロナウイルス感染予防のため直接登校になったが、遅刻する生徒もいるので、現状に満足せず、さらに指導を徹底していく必要がある。
		教職員から生徒への挨拶・声かけを行う。	A	
②	(生きる力を培う) 知性を磨き、徳分を伸ばし、心身ともに健康で自立した生徒を育てる。	基本的生活習慣を向上させる。	B	○コロナ禍で不自由な中ではあったが、生徒は、寮や詰所、つとめ先、学校での生活を通じて生活習慣を身につけるべく、日々励んでくれた。 ○寮生活等の団体生活を送ることで、強固性を育み、仲間の大切さを知り、お互いを思いやりあう姿も見られた。 △コロナ禍のため、全体で集合する機会があまりとれず、様々なことに対して、全体的な指導を徹底しづらい状況であった。 △校内での挨拶等はしっかりできているが、来校者に対する礼儀・挨拶等がまだまだ不十分である。本来の礼儀・挨拶の意味をもっと教職員全体で教えていく必要がある。 △服装や髪型、化粧等、生徒自身が自らを律することができていない部分もあり、根気強く指導していかなければならない。
		授業研究と実践の工夫に取り組む。	B	
		他者への礼儀と思いやりを培わせる。	A	

2. 教育活動の目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
信条教育	(1)親神様、教祖にお喜びいただき、現代社会に必要とされる「道の後継者」を育てるべく、教職員自らが日々信仰実践に励むよう努力する。 (2)3年次に別席を運び、「おさづけの理」を拝読させていただき、4年次には積極的に「おさづけの理」を取り次ぎ、「よふほく」の自覚を持たせるようにする。	学校・学寮研修会、つとめ先懇談会を通じて、学校・寮・つとめ先の連携の強化を図り、おちばに伏せこむ姿勢を培う。	B	○コロナ禍であっても4年生全員がおさづけの理を拝読し、よふほくにならせていただいたことは、とても大きな喜びである。4年生のおさづけの取り次ぎもよく見かける。 ○職員月次祭まなびに積極的に参加し、勇んでつとめた。 △定刻参拝がないことは大きな痛手である。 △新型コロナウイルスの影響もあり、おさづけの取り次ぎが積極的に行えなかった。 △寮研修会やつとめ先懇談会等が実施できず、寮やつとめ先の先生方との交流が少なかった。
		教義科の授業の中で、「つとめ」の大切さを教え、大祭参拝・大祭行事・月次祭行事を通して報恩感謝の心の涵養を図る。	A	
		教職員自らが積極的に「おさづけの理」の取り次ぎ、ひのきしんへの参加、職員月次祭まなびに参加し、信仰の実践に励む。	B	
学習指導	(1)生徒の能力・適性・生活条件に即した魅力ある教育課程の実施をめざす。	「わかる授業」の実践を目指して校外研修に参加したり、教科内での授業研修を行い、指導技術の向上をめざす。	B	○基礎講習や補習等により調査対策を行い、基礎学力の向上を図った。また、数学科では、家庭学習期間中に基本講習を実施し、学習支援を行っている。 ○校内模試への受験を促し、模試の内容も充実させ、実施した。 ○オンライン開催の学習指導研究会に参加し、他校の取り組みを参考にし、活用した。 △新学習指導要領に向けて、ICT環境の整備を拡張し、教員のスキルを向上させていく必要がある。 △本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策により、校外での研修がなくなり、参加できなかった。
		基礎・基本の定着の徹底のため、各教科で、課題を与えたり講習を施したりする。また、「確かな学力」を育成するうえからも、全学年の「校内模試」の実施により、さらに学習意欲を高めるようつとめる。	B	
進路指導	(1)個々の生徒の希望進路を実現するために、本校の実情を踏まえた指導を行う。 (2)社会に出てからも通用する学力・教養を身につけさせる。	2年次の選択科目決定の際、自らの進路について、しっかりと考えさせる。	A	○各種検定試験において、例年以上に成果が出た。 ○就職希望者、進学希望者ともに意識の甘い生徒が非常に多いが、担任及び進路指導部が中心となり、指導を徹底した。 ○生徒一人ひとりにメールアドレスが与えられ、進学、就職ともに有効活用されている。 ○職員室内の生徒用の検索PCの利用により、生徒が進路情報を得やすくなった。 △来年度もコロナ禍が続き就職や入試等に大きな影響が出る可能性があるため、即応できる体制を準備する必要がある。また、今後増えていくであろうWEB面接に対する準備や対策を早急に実施しなければならない。 △早い段階(2年次)で、就職や進学に関する情報を与え、指導を徹底・継続し、生徒自らが自分の進路をじっくりと考えさせる必要がある。 △卒業生による講演等を実施・充実させ、社会人としてのマナーや礼儀、学生と社会人との違いなどを学ぶ機会を設けていきたい。
		授業はもちろん、基礎講習・進学講習の充実を図り、全国レベルの模試も積極的に受けるように指導する。	B	
		進学先・就職先の情報をできるだけ多く提供する。	A	
人権教育	(1)「陽気世界」実現のために「天理教の教義」の実践を通し、あらゆる差別意識の変革をめざす。	研究大会、研修会・公開HR等に参加するなどの自己研鑽につとめる。	A	○公開ホームルーム・新任研修等への参加によって、他校や先輩教員の実践を知り、今後の取り組みの参考になった。 ○暴力事象が減少傾向にあり、一定の成果を感じる。また、生徒は差別について理解し、いじめを否定できる状況にある。 ○面談や気になる言動に対する指導により、問題を未然に防ぐことができた。全ての場面が人権教育であると認識し、言葉遣いや態度に気を付けている。 ○人権ホームルームを通して生徒に自己と他者を大切にすることを指導できた。また、今年度は発達障害やLGBTについても積極的に取り組んだ。 △研究大会や外部研修が中止になり、参加できなかったため、他の方法で自己研鑽できるように工夫していきたい。 △人権ホームルームの教材・資料の充実が必要である。
		あらゆる教育活動において、人権に配慮した指導を行う。	A	
		生徒個々の様子や変化に気を配り、差別・いじめの防止につとめる。	A	
ひのきしん生指導	(1)4年間のおちばへの伏せこみを通して、よふほくとしての自覚と自信を培い、お道の御用に、また、社会に貢献できる人材の育成をめざす。	「つとめ先訪問」を通して、つとめ先と学級担任との連絡を密にし生徒の育成に資する。	A	○学校とつとめ先との連携が緊密になり、様々な問題に対する解決が潤滑に行えた。 ○つとめ先訪問を通して、生徒のつとめぶりを見て新たな一面を知ることができた。 ○つとめ先訪問では、つとめ先での生徒への暖かい配慮が感じられた。 △つとめ先訪問の時期が、学校行事と重なり、多忙になるので調整していく必要がある。
		つとめ先で生じた生徒の諸問題に対し、つとめ先に適切な対応をお願いする。	A	
生徒指導	(基本的生活習慣の確立と規範意識の向上) (1)社会に対応できる精神力と忍耐力のある人間の育成。 (2)信条教育に基づき、自他敬愛、公共の精神を育み、規範意識の向上を目指す。 (3)生活の実態やルール、マナーについての意識を高め、主体的に課題を見つけ、解決できるように支援する。	校内各分掌との連携を図り、教職員の共通理解・共通認識のもと生徒の指導に当たる。	A	○いじめに関するアンケートは、いじめ、暴力の抑止に一定の効果があり、自分から声をあげることができない生徒の訴えの場になっている。 ○例年ほど下校指導を実施できなかったが、登校時の検温・立哨などとあわせ、交通安全に対する生徒の意識は向上しているように思われる。 ○コロナ禍でいつも以上に教室や施設の美化・清掃に努めた。 △服装や髪型、化粧等に対する生徒指導に関してばらつきがあり、教員間の共通認識・連携をより一層深めていく必要がある。 △自転車乗用時の無灯火等がまだまだ多く、安全指導をさらに徹底していかなければならない。 △コロナ禍における、安全・防犯講習や集会等のあり方を検討していく必要がある。
		教職員を含め、学校全体で挨拶を励行する。	A	
		遅刻防止、制服の正しい着用を徹底する。	B	
		清掃や身の回りの整理整頓を徹底し、校内美化に努める。	B	
		登下校時の安全に努める。	B	
		自転車の点検と事故防止、交通ルール遵守とマナーの向上に努める。	B	
		事件・事故防止のため、関係機関による講演を実施する。	B	
		教育相談室と連携し、生徒一人ひとりに対する精神面の支援を行う。	B	
つとめ先、教会(詰所)、保護者との連携を深め、生徒理解に努める。	A			
特別教育活動	(1)学校生活の充実をはかるために積極的に活動できる心豊かな生徒を育てる。 (2)部活動に積極的に取り組み、主体的に行動できる生徒を育てる。	行事を通して生徒の自主性を高め、達成感を得られる活動の工夫と充実を図る。	A	○コロナ禍で、学校行事を行い、制限が多かったが、生徒・教職員の協力のもと、成功裏に終わった。 ○生徒は感染症対策を守りながら、各行事に積極的に取り組み、自分の役割を果たし、責任感を持って行動できた。その結果、達成感を味わい大きく成長できた。 ○部活動の所属率が高く、優秀な成績・結果を残した。 △行事の活動内容に制限があり、生徒の考える幅が狭く思うように活動ができない。 △コロナ禍での行事、部活動は、目標の設定が難しく、モチベーションの向上や学級経営に苦労した。
		活動の具体的な目標を明確にし、継続して努力させる。	A	
		活動を通して役割を自覚させ、責任感を培わせる。	A	
学級経営	(1)相互の受容と共感によって親密な人間関係を築く。 (2)各自が自分の役割を果たし協力してクラスに参画する自主的、実践的な態度を育てる。 (3)生徒一人ひとりに積極的に関わることによって生徒の個性を理解し、学級経営や生徒指導に活かす。	年間計画にもとづいて学級企画HRを実施し、クラスへの帰属意識と自尊感情を育てる。	B	○学級内の様々な役割を生徒は責任をもってよく果たした。 ○ホームルームを生徒主体で運営できた。 ○学校行事への取り組みや色々なクラスマッチを通して、クラスが団結できた。 △コロナ禍のために、学級活動に多くの制限が生じた。 △コロナ対策のために、学級担任の負担が増大した。
		学級内の様々な役割を、各自が責任を持って果たすことにより、団結力のあるクラスに育てる。	B	
		個人面談を計画的、また必要に応じて随時行ない、生徒理解に努める。	B	
教育相談	(1)生徒指導部、ひのきしん生指導部、つとめ先、寮、保護者、教会などと連携しながら、生徒が成長できるよう支援を行なう。 (2)生徒一人ひとりの自尊感情を高めるために、支持的・支援的な態度で接する。 (3)学級経営の充実と合わせて、生徒の心の健康を増進させる。 (4)職員研修を定期的実施し、教育相談に関する教師のスキルアップを図る。	一人ひとりの生徒について、担任を中心に生徒指導部、ひのきしん生指導部、つとめ先、寮、保護者、教会などと情報を共有し連携して支援する。	A	○担任・寮・保健室の各先生とカウンセラーが連携を取り、生徒の情報を共有することで、生徒への細やかな配慮ができるようになってきた。 ○スクールカウンセリングや健康管理室の利用が、以前よりスムーズに行われるようになり、生徒個々の状況に応じて対応ができるようになってきた。 △教員とカウンセラーとが、直接生徒のことで情報交換する場が少ない。 △もっと教育相談に対する周知をし、教員の意識を高める必要がある。
		授業中、参拝時、休憩時間、夕食休み、放課後などあらゆる時間において積極的に生徒とコミュニケーションを図る。またその際は褒めるなど支持的な声かけをする。	A	
		ホームルーム活動と個人的な支援を連携させながら生徒が元気に生活を送れるようにする。	A	
		教育相談に関する職員研修に参加し、理解を深める。	A	
学寮	(1)学校・寮・つとめ先の三位一体の生活のなかで、学校・つとめ先・保護者との連携を強化し、互い立て合い助け合う心を持って、生かされている喜びを素直に受けとる生徒を育てる。 (2)身上かしのもの・かりものの自由のご守護に感謝し、進んで「朝起き・正直・働き」を実践させていただき生徒を育てる。	学校・学寮研修会、教職員研修会を通じて、職員相互の関係を密にし、連携を強化する。	A	○積極的に「おさづけの理」を取り次ぎを実践した。 ○寮職員(幹事も含む)の連携を図り、生徒指導にあたることができた。 ○コロナ禍で、陽性者を出すことなく対策ができた。 △コロナ禍で学校・学寮懇談会、研修会を中止せざるを得なかった。生活指導員として資質の向上に努めるため、研修、研鑽が必要である。 △新型コロナウイルス対策として、集団生活での三密の回避、寮行事等の見直しが必要となった。 △防犯の観点から、セキュリティ強化が必要である。 △寮の耐震化等、生徒の安全確保を切実に感じる。
		学寮職員としてすすんでおさづけを取り次ぎ、おたすけを実行する。	A	
		保健部・教育相談室との連携を深め、精神面でのフォローを行い心身ともに健康的に寮生活が営めるよう支援する。	A	
		生活指導員としての研修を継続的に行い、学寮職員としての資質を高める。	A	